



あお やま のり たけ
青山 昇 武

こうめいとう き いんだん
公明党議員団

ヨット競技の普及・振興の促進を

問 津の海岸は世界にも誇れるヨットハーバーである。サメがいない、ハーバーから即レース会場、潮流が穏やか、風の流れが一定、といった4つの条件が整っているのは津市だけであり、指導員の人材もそろっている。また、市内の高校では、4月からヨット部が発足する予定である。このことから、三重国体に向け積極的に促進すべきではないか。

答 津ヨットハーバーは、昭和50年の国体や国際470級世界選手権が開催されるなど、全国的にも優れた環境を有していることから国体会場として最もふさわしい場所であると考えている。市としても、津ヨットハーバーの環境整備を進める良い機会と考えており、一般財団法人伊勢湾海洋スポーツセンターと連携を密にし、施設の管理やディンギーヨットの体験教室など普及啓発活動に対する支援を行っていく。

また、競技力の向上に向け、県立高校でヨットクラブを創設する動きがあることから、市としてもできることがあれば支援していきたい。

●その他の質疑・質問●

- 小中一貫教育について
- 土曜授業について
- 4大プロジェクトの進捗状況
- 地方創生で地域の活性化を
- 学校施設の整備について
- 屋外競技場の考えは
- OMIE-NETの進捗状況は
- 市民清掃デーについて
- Web119の周知を
- 津市プレミアム商品券発行事業について



▲好条件が整っている津市で、ヨット競技の普及推進を



おお の ひろし
大野 寛

しん わ かい
津和会

木質バイオマス発電事業の今後について

問 津市とJFEエンジニアリング(株)との間でバイオマス産業都市構想に関する包括連携協定が締結され、燃料として国産木質チップを一部使用するバイオマス発電が動き出す。

津市の森林整備の中から発生する間伐材の活用が大いに期待できる事業が始まる。

林業の活性化に向け、この事業にどのように取り組んでいくのか。

答 平成28年7月の発電開始に向け建設工事が進められている。約4万5千世帯分の発電能力を持ち、年間約15万トンの木質バイオマスが必要とする。地域産バイオマスとして年間5千トンを目標とし、将来2万5千トンまで供給量を増やしていければと考えている。安定的な木材の需要先があることは林業振興を進める上で有効であり、間伐材を含めバイオマスを供給できる体制整備も必要であることから、低コストで安定した調達を進めるため、高性能林業機械の導入による効率的な搬出体制等、関係者のワーキンググループを立ち上げ取り組みの推進を図っている。また、長期的なバイオマス供給増のため、造林事業の維持拡大が必要であり、作業道の整備等支援していきたい。

●その他の質疑・質問●

- 津市の農業について
 - ・農地集積状況について
 - ・多面的機能支払交付金事業について
 - ・獣害対策事業について
 - ・補助金制度の改正は
 - ・津市農業の今後の展望は
- 津市営浄化槽事業について
- 市内の中小河川での危険水位の検討および未対策の危険箇所への対応について など



▲整備が待たれる市内の森林